

## 2019年度ランゲージラウンジ活動報告

教養教育センター ランゲージラウンジ運営委員会

## 1. 総括

2008年に始まったランゲージラウンジ活動は、まず語学検定試験用の問題等をそろえて学生たちが自律的に学習できる環境をつくることから始まった。現在では、英語とスペイン語はILSSP (Independent Language Study Support Program) を開設し、学習者自らが具体的な目標を設定して、そのゴールに向かって定期的にチューターと面談しながら(英語)、あるいはオンライン学習を用いて(スペイン語)、自律学習実践ができるように支援を行っている。また、それ以外にも、言語によっては曜日・時限を決めて、ネイティブスピーカーとの会話実践の場を提供したり、日頃の学習のサポートを行ったりしている。

以上のように、現在は、各外国語がそれぞれ独自の事情を考慮して行っている。引き続き次年度についても、留学生との交流の機会を増やし、言語がコミュニケーションの道具であることを実感できるような場を増やすことを目標に、多様な外国語支援活動を行っていききたい。

## 2. 活動詳細

## 2.1 英語部門：鈴木陽子

英語部門では、二種類の自律学習支援プログラムを実施した。一つは、一学期間にわたって自律学習を支援するIndependent Language Study Support Program (ILSSP)、もう一つは、一回20分のセッションから参加可能なEnglish Clinicである。

ILSSPは、本学非常勤講師の山森由美子氏および坂井誠氏を担当者とし、春・秋学期共に月曜日(11:00-15:00)、水曜日(11:00-12:55)、木曜日(13:00-15:30)に実施した。各学生が設定した目標に沿って教材や学習方法を提案し、ポートフォリオ(学習記録)を活用して、自律的に学習計画や目標が立てられるよう助言を行った。春学期の説明会には多くの学生が集まり、受け入れ可能な人数を大幅に超える申し込みがあったが、個別指導という性質から、希望する学生全員にプログラムを提供することは叶わなかった。そのため、参加申込書に記入された英語学習の目標を勘案して選抜を行った。本年度の参加者数は以下の通りである。

表1 ILSSPの実績

	LE	LF	LA	EE	EB	EG	SG	SW	JU	JC	JP	JG	KS	KC	PS	PE	計
春	3	2	2	1	0	3	0	0	0	1	4	0	7	0	1	0	24
秋	1	0	3	2	0	0	0	2	0	1	2	1	7	1	2	0	22

English Clinicは、ILSSPに参加することができなかった学生や英語学習に関するさまざまな質問や悩みを抱える学生に向けて本年度からスタートした自律学習支援プログラムである。本学非常勤講師Ida Gomez氏および田辺玲子氏を担当者とし、春・秋学期共に火曜日(12:35-13:15)

と金曜日（12:35-13:15）に実施した。各学生が抱える相談内容に応じて、文法や語彙について、TOEIC・TOEFLについて、プレゼンテーションについて、留学関係書類の作成について、英語の学習方法等について助言を行った。また、学生が友人を連れて英会話の練習ができる機会も提供している。本年度（12月末時点）のセッションの予約率は以下の通りである。

表2 English Clinicの実績

	春学期	秋学期	全体
提供数	52	50	102
予約数	41	32	73
予約率	78.8	64.0	71.6

予約率は全体で71.6%と概ね良好である。来年度以降も多くの学生に利用してもらえることを期待したい。

## 2.2 ドイツ語部門：吉田真（経済学部）

2019年度ランゲージラウンジ(ドイツ語部門)は「ドイツ語 de ランチ」と題して、片山由有子氏(本学非常勤講師)が毎週月曜日の昼休み(12:30~13:20)に行なった。毎回定期的に参加する学生の人数は年間を通して6~8名程度であった。参加者の大半はドイツ語初級を履修している1年生の学生だったが、中級ドイツ語を履修している2年生の学生やドイツ語未修者も参加し、ドイツ語だけでなく、ドイツ語圏の文化に関するさまざまな情報を提供する場となった。

参加者の大半が初学者とドイツ語未修者だったため、旅行や日常生活、ネットショッピングですぐに活用できるドイツ語を身につけることを主眼とした。教材として用いたのは、過去のNHKドイツ語講座やドイツ語圏に関するドキュメンタリー放送、ドイツの様々なメーカーや商品のHP(ダルマイヤー、LAMY、WELEDA、ドクター・ハウシュカ、BMW、ドイツ鉄道等)やYouTubeなどである。現代ドイツの社会情勢など文化・政治にまつわることも同時に扱った。特に秋学期は、次回扱うテーマを参加者と話し合い、前日までに重要単語や言い回しをメールにて知らせることで、内容の充実と学習の効率化を図った。

本講座では春秋両学期を通じ、参加者がドイツ語やドイツ文化に親しみをもってもらえるよう努めること、参加者のドイツ語学習へのモチベーションを高めることを目標とした。

## 2.3 スペイン語部門：大森洋子

スペイン語では、昨年に引き続きオンラインコースを行なうとともに、Francisco GARZÓN先生を講師に、Tertuliaと名付けて、会話実践の時間も設定した。

自律的な学習をより効果的に行えるオンラインコース、セルバンテス文化センターが開設しているAVEがリニューアルし、AVE globalとなり、スカイプ授業を含む自律学習コースとなった。今年は、学生のレベル、ニーズに合わせ、スカイプ授業の時間、回数を調整し、コース最初、および途中で2回から4回の受講を行なうことが可能になり学生たちの学習意欲の向上がみられた。昨年度より大学での学習内容に合致したものを工夫、さらに、どのような会話がなされるかについて事前に配布物を用意し、スムーズに学習ができるようにした。また、学習者のニーズ、レベルによってコースをカスタマイズし、そのコース学習を行なっている学生が何名かいる。受講生の中にはより興味を持ち、スペインの留学希望などにも繋がってきている。

一方、会話スペースでは、一部の授業とコラボする形で、スペイン語圏の生活、都市について聞いてくるなどの課題を出すことによって、授業外での学習を促した。後期は、より具体的に留学、DELE受験、SIELE受験（スペイン語力を能力別に点数で知らせるコンピュータによる試験）受験など具体的な目標を持った学生の来室がある。年間平均的に5、6人の参加があった。今後は、授業との連携、スペイン語圏への興味をかき立てるような工夫を担当者と話し合い、すすめていくことを来年度の課題とし、学生たちに外国語でコミュニケーションすることの楽しさ、新しい気づきなどを提供したい。

## 2.4 中国語部門：張宏波

2019年度中国語部門「中文会話倶楽部」の活動は、昨年までに引き続いて中国人留学生がスタッフとなって担当し、毎週木曜日の昼休みに横浜校舎138教室で行なわれた。春学期と秋学期にそれぞれ12回と13回開催された。

春学期は参加者数が全体に多く、数名の回もあったが、20名、30名を越えるほどの盛況回も見られた。人数が多いとやはりそれ自体で明るく活発な雰囲気生まれ、楽しみながら学ぶという目的に適う場になりやすいことが確認された。

秋学期は一転して少なく、毎回数名程度の参加者だった。前後の授業配置の影響が小さくないようである。

また、12月には参加者からの要望が毎年上がってくる「国際交流会」を開き、学生自身が水餃子を手作りして中国の食文化を体験する機会を設けることができた。これには、日本人学生のほか、中国、韓国、ミャンマーからの留学生、さらに中国系アメリカ人の留学生2名も参加して、16名で賑やかに交流を深めることができた。近年の日本の学生は、家庭で餃子を手作りするという経験をほとんど持たないようで、新鮮な経験だったようである。

普段の会話倶楽部は留学生との交流の場でもあり、それ自体を楽しめる側面もあるが、やはり広い意味で「語学」の場という雰囲気が強い。一方、体験や実践の場を通して中国語学習意欲が刺激される学生がいるのも確かである。今後も様々な学びへの通路を用意するよう心掛けていきたいと

考えている。

## 2.5 韓国語部門：金珍娥

2019年度 韓国語ランゲージラウンジは横浜校舎において以下のような日程と体制で週1回実施した：

### ●横浜校舎 担当講師：高槿旭（コグヌク）

実施期間：春学期2019年4月23日～7月16日（毎週火曜日）

秋学期2019年10月1日～12月17日（毎週火曜日）

教室：明治学院大学横浜校舎 138教室

時間：12時30分～13時20分

人数：春学期 6～10人 秋学期 2～3人

担当講師の高槿旭先生から以下のようなことが伝えられた：  
話す能力の向上を最大の目標とした。具体的な内容と、成果は次のごとくであった。

### 1. 学習内容：以下の3点を中心に韓国語の会話能力向上に努めた。

- ・就職、趣味といった身近なテーマを中心に韓国語で語り合う。
- ・日本語圏と韓国語圏の文化の相違点について韓国語で語り合う。
- ・最近のニュースや好きなドラマなどの内容をまとめて韓国語で語り合う。

### 2. 学生の反応と成果

韓国への留学を希望している参加者が多く、積極的に参加しており、学習意欲は非常に高かったと言える。春学期は韓国人の留学生も参加してもらい、学生には良い刺激を与えることができた。

学生からは、「生身の韓国語に触れる機会が得られて嬉しい」、「少人数で話しやすい」、「韓国に興味を持っている仲間と交流できて良かった」などという意見が多い。また、韓国文化についても、「理解を深めることができた」、「講師が韓国語で講座を進めてくれるのが嬉しい」といった意見も得られた。

総括して、韓国語のランゲージラウンジが韓国語能力の向上のみならず韓国文化についての関心と知識の向上、学習モチベーションの向上へと、導くことができたと考えられる。

## 2.6 フランス語部門：塩谷祐人

2019年度ランゲージラウンジ（フランス語部門）は、勝山絵深氏（本学非常勤講師）が毎週月

曜日の昼休みに行った。ラウンジの名称をPause Café（ポーズ・カフェ）としたのは、学科を越えてフランス語を学ぶ学生たちが集まり、フランス語の疑問を解決したり、実践的なフランス語を習い覚えたりするだけでなく、フランスの情報が得られるカフェのような場所になることを願ったことである。

春学期は回によって人数の増減はあるものの、10人前後の学生が参加し、カフェやマルシェあるいは映画といったフランスの文化に触れつつ、日常会話を学んでいた。同時に、学生からの要望もあり、授業に関する個別のサポートも行った。

秋学期は授業で毎日フランス語に触れているためか、フランス文学科の学生の参加が少なくなり、フランス文学科以外の学生が中心となった。参加者は概ね毎回2~3名であった。そのため、学生からの要望に合わせて、フランス語検定（4級）の対策や授業のテスト対策を含めたサポートが活動の中心となった。

文法を中心に勉強したいという参加者や会話の練習を行いたいという参加者がおり、学生の希望や反応はまちまちであった。そのため、今後は各学生の要望に応えつつ、ラウンジ内全体での会話練習などが両立できるような運営ができるようにしたいと考えている。また昼休みで昼食を取りながら行っていることもあり、会話の練習には工夫が必要であると思われる。